11/1 図書室休館のお知らせ

資料整理のため、11月1日（火）は、図書室をお休みします。

11月2日（水）からは平常どおり利用できます。

▶問合せ　社会教育センター　図書室　☎28-5449

ぼくのきんぎょをやつらがねらう！

武田美穂　作
（小学館）

（3～5歳児向け）

児童書

ぼくの大事なきんぎょをねらうのは、にわとり、犬、野良猫…。心配で心配で、ぼくは野球も学校も手に付かない！子どもの心に寄り添う、楽しくて心温まるストーリー。

駅名・地名不一致の事典

浅井建爾　著
（東京堂出版）

品川区にない品川駅、渋谷区にある南新宿駅…。知らないと現地でとまどう、駅名と所在地の地名が一致しない駅。駅名を地域別に分類し、なぜその駅名になったのかを、駅名および路線の変遷、駅名の由来などと共に紹介する。

よっつ屋根の下

大崎梢　著
（光文社）

父の転勤をきっかけに、親子四人はそれぞれに思い巡らす。家族と自分は、どっちが大事？ひとつじゃないけど、ひとりじゃない。家族でいるのが大変な時代の、親子四人の物語。

豊山俳句クラブ

青山克己　選

青田抜け風の行く先日本海　青山とも子

しゃぼん玉戯れ風と何処へ行く　水野眞弓

渋滞に花火の記憶うすれゆく　谷崎琴

研ぎ師来ぬ夏や淋しき顔をする　高木須磨子

陽の匂ひ風の匂ひや大早　田村多喜子

オホーツクの夏果てしなく海青し　坪井昭子

ひぐらしの鳴きて寂ゆく過疎の村　杉浦みどり

にぎる手を頬張る嬰や金魚草　村上ゆり子

鵜の首のぐひと伸びたる鵜飼い舟　小塚美枝

白桃や赤子の眠る乳母車　石黒貴代子

束の間の打ち水あっと乾きをり　杉本衿子

誘われて村はずれまで夏の月　安藤春一

炎天を来て菩提寺の大庇　岡島齋

風黒く抜けてゆく土間広島忌　青山克己

豊山歌壇

水野笑子　選

青深き湖浮かぶ眺めなり　安藤定岳

残雪バックにカメラ手にとる　一柳千鶴子

丸髷に傘を手にせし若き日の母の写真を恋ひゐる今日は　井上とよほ

思ひ出の家族写真は温かく　木村和子

ちちははの愛伝はりて来る　鈴木久子

つゆ空を押し上ぐるごと百合の花真上を向きて真つすぐに咲く　鈴木弘香

思ひきり両手を広げし麦わら帽の我に射しゐるはつ夏の陽は　櫛田真寿美

花を愛し生徒を慈しむ生涯を師は逝き給ふ梅雨の最中に　小出寿枝

つゆ晴間目白のつがひは狭庭辺の池に水浴ぶ姿また良し　佐藤良子

ザワザワと桜若葉は風に揺る小さき苗木も四十五年経て　柴田満枝

政治家は必ず言ひし国のため言訳ばかりのテレビ中継　鈴木久子

あぢさゐの花色日に日に七変化真白が好きよと梅雨空見上ぐ　鈴木弘香

編集後記

安来節と聞くとどじょうすくいを連想する方は多いだろう。発祥の地である島根県安来市では、どじょうすくいのまちとして、どじょうの養殖もおこなわれている▼本町ではかつて、祭りなどの際のご馳走にどじょう寿司をいただいた。本町においても、どじょうは大切な存在である▼毎年十月に名古屋市内で開催される名古屋まつりでは、「豊山まちおこしの会」が手作りのどじょう寿司を会場で振る舞う。大勢の来場者が手に取り、毎回すぐになくなる人気ぶりだ▼今年は、安来市で養殖されたどじょうを使うことになった。養殖どじょうは、天然物に比べて骨が柔らかく泥臭さもない▼家庭からは消えつつあるどじょう寿司。町の魅力を高める取組をしているもう一つの町民団体「豊山町まちづくりサポーター」は、どじょう寿司文化を町から絶やさないためのプロジェクトを考えている▼どじょうは、小さいけれども栄養豊富で、栄養価はあの大きなうなぎにも匹敵すると昔からいわれてきたそうだ。どじょうの秘めた力に、胸が高鳴る。